

先ほど岩松要輔黄城会会長に黙とうを捧げた。岩松会長は、本校の第 20 代校長として平成 10 年 4 月から 12 年 3 月まで勤務されていた。岩松校長先生の頃の小城高祭と今の小城高祭を比べると、だいぶ中身が違いただろう。しかしながら、時代が移り変わっても変わらないものがある。それは、小城高祭が、自分らしさを表現する絶好の機会であり、主役は、君たち一人ひとりだということ。今も昔も変わらず、生徒諸君が、自分の“伝えたい”という想いを精一杯の形にして表現する場が小城高祭である。

今年の小城高祭のテーマは“零映（れいわ） #あなたの番です”（意味はパンフレットの中の山口実行委員長の言葉にある通り）

私たちは、幸運にも、「令和」という新しい時代の幕開けに立ち会うことができた。ただ、歓迎ムードだけで終わってはいけない。肝心なのはこれからだ。新しい時代は、与えられるものではなく、自ら創り出すもの。その原動力は、君たち一人ひとりの新しい力だ。各自が「いよいよ自分たちの出番だ」と意識し、Challenge することすることが大切である。

また、今年の夏は天候不順に悩まされる夏である。しかしながら、人の輝きは、天候には左右されない。小城高祭という最高の舞台で、最高のパフォーマンスで輝いて欲しい。今年の小城高祭が、とびっきり上等な思い出として、一人ひとりの心アルバムに刻まれることを願い、開会（かいかい）の言葉とする。

体育祭開会式校長挨拶（要旨）

R元. 9. 7

今日は、台風13号の影響により雨の心配はあるが、こうして体育祭が無事に開催できることを感謝する。できれば、生徒諸君の熱気で雨雲を追い払ってもらいたい。

初めに、この度の九州北部豪雨で大きな被害を被った多久市、武雄市、大町町が局地激甚災害の指定を受ける見込みだとのニュースが流れた。改めて亡くなられた方のご冥福と、被災地の一日も早い復旧をお祈りする。

さて、体育祭は校内で行われる最大のスポーツイベントだ。スポーツの本質は、「楽しむこと、遊ぶこと」。君たちには、今日一日、大空のもとで、楽しく過ごして欲しい。

また、スポーツの醍醐味といえば、「競技者と観客の心が一つになること」。ある時は、人と人が、敵・味方の区別なく、またある時は、地域を越え、国境を越えてつながることだと思う。例えば、先週のサガン鳥栖のホームゲームでは、この度の九州北部豪雨の直後ということもあり、「被災された方々へ勇気を。ともに乗り越えよう、今を」という横断幕が掲げられた。試合は前半0-1でリードを許す展開であったが、後半半ばに追い付き、試合終了間際の劇的な勝ち越しゴールというドラマチックな展開で勝利した。鳥栖サポーターばかりではなく、被災地の方々にも勇気と元気が届いたと思う。スポーツを通して、心と心が一つにつながっていく。これこそが、スポーツの魅力である。

今年の体育祭は、どの軍団に勝利の女神がほほ笑むか？勝敗のカギを握るのは「チームワーク」である。女神は、結束力の強いチームに降臨する。各軍団には、競技を通して絆の強さを競い合ってもらいたい。そして勝敗が決した後は、互いに握手をして相手の健闘を讃えようではないか。

また、今日は、週休日ということもあり、保護者やご家族の方々、卒業生や地域の方々など、大勢応援に駆けつけてくださるだろう。君たちの笑顔とパフォーマンスこそが、日頃お世話になっている方への恩返し、最高の「おもてなし」だ。君たちの日頃の感謝の心を、精一杯の形にして表現してもらいたい。

では、生徒諸君、期は熟した。「さ、始めよう！」

体育祭閉会式校長挨拶（要旨）

R元. 9. 7

体育祭は、いよいよフィナーレを迎えた。今日一日、「意地と意地」がぶつかり合い、「熱気」が交錯する見どころの多い体育祭であった。

今年は、悪天候に悩まされたが、生徒諸君は、モチベーションを高く保ち、素晴らしい集中力とパフォーマンスを見せてくれた。

（3年男子騎馬戦）

- ・維持と意地、力と力のぶつかり合い

（クラス対抗リレー）

- ・よく転んでいたが、七転び八起き、最後まで諦めない不屈の精神

（長縄跳び）

- ・掛け声とともに息の合った巧みなジャンプ・

（フォークダンス）

- ・本当にうれしそうに手をつないでいた。

今年の体育祭や文化祭に注がれた生徒諸君の「情熱」はとても眩しかった。それは何ものにも代えがたく尊いものである。

「情熱に勝る能力なし」と言われる。いろいろな場面において、情熱をもって、一生懸命やれば、必ず道は開けてくる。なぜなら、「情熱は周囲の人に伝わりやすく、周囲の人はその人の情熱を感じて、できれば応援したいと運を運んできてくれる」。知っての通り、成功の要因は、能力4割、努力4割、運が2割と言われるように、自分に運がめぐってくるか、運をつかみ取れるかは、成功か失敗かの大きな分かれ目である。生徒諸君は、この度の小城高祭で見せてくれた「情熱」を忘れることなく、これからも、自身の「ワンアップ」を図るために情熱を注いで欲しい。

優勝を逃した「黄団チーム」へ・・・

黄団の皆さん、お疲れ様

「リーダーの条件は、共感者をどれだけ増やせるか」だと言う。

- ・（団員たちは）頼もしいリーダーのもとに結集して戦えたことに満足している。
- ・（リーダーは）自分たちを信じてついてきてくれた素晴らしい団員に恵まれたことを幸せに思っている。

- ・黄団は、例え優勝は逃したとしても、こんなにも素晴らしい仲間と素晴らしい時間を共有できたことを誇りに思ってくれ。{黄団、最高！}

生徒の皆さん、君たち一人ひとりの頑張りによって、素晴らしい小城高祭となった。有り難う。